

放射線治療について

放射線治療と言われてもあまり馴染みがないかもしれませんが、簡単に言ってしまうと“放射線を用いたがんの治療”です。放射線という目に見えない光線を“がん”に当てることによってがんを治療します。

患者さんは治療の寝台に動かずに寝ていただいているだけで治療は終わり、治療中の苦痛はほとんどありません。1回の治療は10分以内で終わってしまうものが大半です（1回の治療時間は短いのですが、毎日治療を受けていただき、総治療期間は2～8週かかります）。



放射線治療の大きな特徴としては“形態や機能を温存できる”ということと、全身麻酔を必要とするような手術や、抗がん剤治療と比べて“患者さんの身体への負担が少ない”ということが挙げられます。

負担が少ないとはいえ副作用が全くないわけではなく、放射線の当たった範囲の正常臓器には必ずある程度の副作用はでてしまいます。

放射線治療の理想としては“がん”にはしっかり放射線を当てて、周囲の正常臓器にはできるだけ放射線を当てないということになるのですが、近年の医療機器の進歩により、強度変調放射線治療（近接する正常臓器を避けてがん放射線を集中させる技術）や画像誘導放射線治療（治療時ごとに画像情報を取得して体内での病変の位置変動に対応）、定位的放射線治療（小さな病変に対し多方向から照射して一度に大線量を照射し治療効果を大きくし、治療期間を短縮する）などの高精度放射線治療が開発されました。

当院でも今年度の機器更新で汎用型の放射線治療機器としては現時点での最新機種を導入することができ、これらの高精度放射線治療が実施可能となりました。

“がん”は頭から足の先までどこにでも発生し、あらゆる診療科で扱われる疾患ですが、放射線治療はほぼ全ての“がん”に対して何らかの形で治療に貢献することができます。

がんの治療で悩まれたら放射線治療の適応についても主治医の先生に相談してみてください。



高精度放射線治療装置(Linac)

【放射線科診療部長 村松 博之】

